

科目名	日本語理解D（文章表現） Japanese D: Sentence Expression						
科目担当者	清松 大 KIYOMATSU Hiroshi						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [総合教育科目 総合講座] 経営学部・経営学科 [総合教育科目 総合講座]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(2)
授業の概要	<p>世界は、さまざまな言葉や文章に囲まれている。それらは、例えば広告や新聞、ネット記事などの生活に根付いたものから、映画や小説など芸術的な領域に関わるものまで多岐にわたるが、そうしたあらゆる種類の言葉や文章が、我々の生活を形作っているのである。</p> <p>本科目では、「日本語理解」A～Cからの連続性のもとに、実践的な日本語運用能力の一つとして受講生各自の文章表現力の向上を目指していく。そのような成長は、様々な状況を想定した課題設定のもとに、受講生自身が主体的に文章実践を行っていくことにより達成されるだろう。それは、ビジネスなどの実用面に役立つだけでなく、大学生として、あるいは社会人としての生活そのものを豊かにしていくはずである。</p>						
授業の到達目標	<p>① さまざまな状況やフォーマットに応じて、適切な言葉を選びながら論理的かつ他者に伝わる文章を書けるようになる。</p> <p>② 多種多様な文章表現の方法を学び、自ら書くという実践的行為を通して、より高度かつ豊かな表現力を身につける。</p> <p>③ 大学生あるいは社会人として必要とされる技能としての日本語運用能力を身につける。</p>						
授業計画・内容	1	イントロダクションー「文章力」とは何か					
	2	文章表現の基礎①ーエクリチュールとパロール					
	3	文章表現の基礎②ー重複回避のテクニック					
	4	文章表現の基礎③ー句読点と接続詞					
	5	文章構成の技術①ー具体的に伝えるために					
	6	文章構成の技術②ー段落分けとトピック・センテンス					
	7	文章構成の技術③ー「主張型文章」のつくり方					
	8	文章構成の技術④ー説得力のある文章を書くために					
	9	文章実践①ー実用文・ビジネス文書を書く（その1）					
	10	文章実践②ー実用文・ビジネス文書を書く（その2）					
	11	作家たちの文章表現術①ー『文章読本』を読む					
	12	作家たちの文章表現術②ー紀行文のメソッド					
	13	創作の愉しみ①ー小説を書いてみよう					
	14	創作の愉しみ②ー「季節」を描く俳句					
	15	総括ー文章とことば					
授業外学修 (事前学修)	・教科書の範囲をチェックし、内容を把握しておく（毎週1時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	<p>・授業内課題への回答例を参考に、自ら提出した文章を書き直す（毎週1時間程度）</p> <p>・生活に即した文章実践として日記（ブログ等も可）をつける（毎週2時間程度）</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	<p>・授業内課題等（Moodle または紙媒体で提出）</p> <p>・期末レポート</p>					60% 40%	①、②、③ ①、③
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	<p>・小林洋介『デキる大人の文章力教室』（日本文芸社、2013年）</p> <p>・新稲法子『伝える伝わる文章表現』（KSTプロダクション、2021年）</p>						
参考文献	・野矢茂樹『増補版 大人のための国語ゼミ』（筑摩書房、2018年）など						
その他	「日本語理解」A～Cを履修済であることが望ましいが、必須条件ではない。						